

大和三田会 会報

No.4

2011年12月

Keio University



目次

- 1) 4 平成 23 年大和三田会・新年会のご報告
- 2) 第 4 回大和三田会総会のご報告
- 3) 特別投稿「塾生時代の思い出」
(井上 勝彦/石塚 雅男/川井 慎司)
- 4) 自由投稿
「我がワグネルソサイエティー」吉村 満
「慶應義塾とラグビー」大日方 健
- 5) お知らせ

平成 23 年大和三田会・新年会のご報告

大和三田会の新年会が、平成 23 年 1 月 15 日（土）、中央林間の「欧風台所ラ・パレット」にて開催されました。

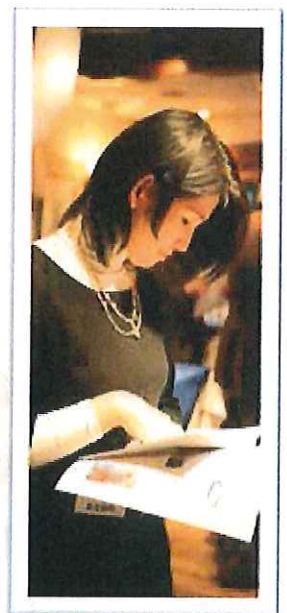
今年も大和三田会会員、会員のご家族、友人あわせて、約 50 名の多くの方々にご参加いただき、盛大な新年会となりました。

午後 6 時、清水麻帆会員（平成 9 年法学部卒）の司会により、新年会がスタートしました。最初に、井上副会長（昭和 36 年経済学部卒）から、開会のご挨拶があり、続いて参加者全員で慶應義塾塾歌が斉唱されました。



太田滋会長（昭和 23 年工学部卒）による会長挨拶があり、富沢篤紘大和三田会顧問（昭和 38 年法学部卒）の発声による乾杯が行われました。

さらに、古木通夫幹事長（昭和 44 年経済学部卒）から大和三田会会員の慶弔報告、新入会員、ゲストの紹介が行われ、立食パーティー形式による懇親会が始まりました。



なごやかな雰囲気の中、おいしい料理、ワインに舌鼓を打ちながら、参加者全員しばし歓談に花を咲かせました。

宴もたけなわの中、司会の清水麻帆会員の呼びかけにより、新年会大抽選会が開始されました。大抽選会のお手伝いは、土橋篤会員（昭和 50 年工学部卒）大日方健会員（平成 10 年商学部卒）、荻須博江会員（平成 16 年経済学部卒）です。景品は豪華慶應グッズ、特等賞から 3 等賞まで合計 19 本です。抽選に当たった参加者は、周囲の祝福の中、満面の笑みを浮かべて喜びの表情をみせていました。



新年会も終盤をむかえ、恒例の慶應カレッジソングの大合唱、吉村満会員

（昭和 48 年法学部卒）の指揮のもと、歌声が室内に響きわたりました。さらに大日方健会員のエールの声に会場の興奮は最高潮に達しました。

最後に、石塚雅男副会長（昭和 40 年経済学部卒）による中締めのご挨拶があり、6 月の総会での再会を誓って今年の新年会は盛会のうちに閉会しました。



月日が過ぎるのは早いもので、平成 24 年の新年会の案内をする時期にもなっておりました。平成 24 年の新年会は、平成 24 年 1 月 14 日（土）午後 6 時、中央林間「欧風台所 ラ・パレット」にて開催の予定です。会員の皆様も、また、まだ会員にはなっていない皆様も是非ご参加いただき、楽しいひと時をすごそうではありませんか。ご参加をお待ちしております。



第 4 回大和三田会総会のご報告



平成 23 年 6 月 11 日、横浜うかい亭で、大和三田会第 4 回総会及び懇親会が開催されました。当日は、多くの会員・家族の方の参加をいただき盛会に開催されましたが、改めて総会及び懇親会を振り返ってみたいと思います。総会では太田滋会長（昭和 23 年工学部卒）から開会のご挨拶をいただき、議案の審議に入りました。



大和三田会会長 太田 滋

本日は大変お忙しいところ、大和三田会の第四回総会に斯くも大勢の塾員諸君の御出席を戴き、お陰様で期待以上の盛大な三田会に相成り、御同慶至極に存じます。慶應義塾創立 150 周年を記念して、大和市に大和三田会が設立されて以来、早いもので 3 年が過ぎました。

本年 3 月 11 日に東北地方で突然起こりました東日本大震災による日本史上経験のない大地震による想像を絶する津波の被害、加えて予断を許さない福島原子力発電所の想定外の発電設備の破損により世界を震撼させた放射能被害の妨仰に追われている昨今であります。

~~6月10日現在、死亡者 15,400 名、行方不明者 8,000 名、避難者 90,100 名と相成り、犠牲となった方々には謹んで哀悼の意を表します。また、今なお避難所で生活されている方々に心よりお見舞い申し上げます。大和三田会からも震災お見舞い金として 10 万円を三田会本部に送金させていただきました。~~

さて、大和三田会も設立後 3 年を経過し、皆様の意見を取り入れ、年初めより本格的に諸行事を計画して参りましたが、大震災が起こりましたことから、4 月 8 日のゴルフ会、5 月 21、23 日の青森県下北半島への一泊旅行等の行事を自粛、キャンセルせざるを得ないこととなりました。ただ、自粛自粛では日本経済の発展もないと思われまので、皆様の意見を多く戴き、存在感のある会として、大和三田会を盛りたてていきたいと思っています。簡単ですが、第 4 会総会の会長挨拶とさせていただきます。

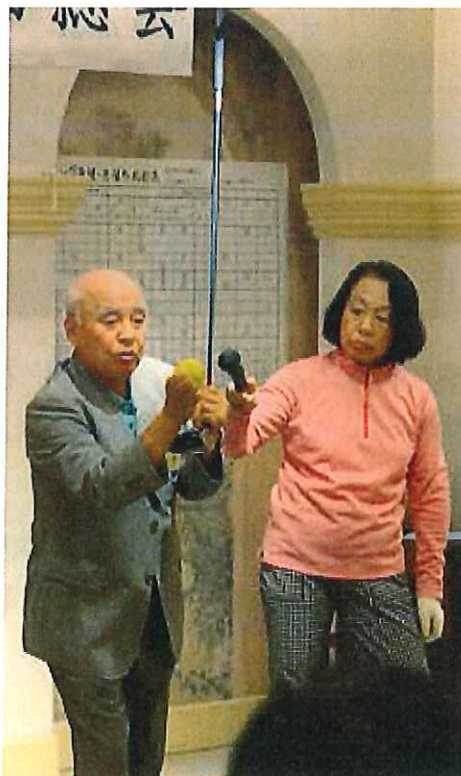
第1部・総会の議事内容については、次のとおりです。

1. 平成22年度事業報告
2. 平成22年度決算報告
3. 平成23年度事業計画
4. 平成22年度事業計画
5. 平成23年度予算案

第2部では、慶應義塾常任理事
真壁利明会員(昭和45年工学部卒)
から「昨今の慶應義塾の動向」と
題してご講演をいただきました。



続いて、日本ゴルフ総研代表財団米国ゴルフプロ上級インストラクター吉田勝氏から「生涯スポーツとしてのゴルフの薦め」と題してご講演をいただきました。



両氏のご講演の後、中庭にて会員全員で記念撮影を行いました。



第3部では、総会に引き続き清水麻帆会員（平成9年法学部卒）の司会のもと懇親会がスタートしました。



最初に、吉村満会員（昭和48年法学部卒）の指揮、石井一夫会員（昭和49年文学部卒）のピアノ伴奏に合わせ、荘厳に慶應義塾塾歌を斉唱しました。

その後、来賓紹介があり、来賓を代表して早稲田大学大和稲門会会長石川公弘氏からお祝いのご挨拶をいただきました。



続いて、上田利久会員（昭和 25 年医学部卒）のご夫人郁代様による歌が、大杉光恵様のピアノ伴奏によりありました。

その後、大和三田会顧問衆議院議員甘利明会員（昭和 47 年法学部卒）の発声により乾杯があり、歓談に入りました。



しばらく歓談した後、ゲストのバリトン歌手の堀内士功様とピアノ伴奏の河崎恵様のご夫妻によるプロの演奏が披露されました。昨年、一昨年に続く出演ですが、何度聞いても身体に響き渡るような素晴らしいものでした。この日の演目は、「川の流れるように」、「マリウ・愛のこぼれを」、「フニクリフニクラ」、「オーソレミーヨ」、「闘牛士の歌」の 5 曲でした。どの曲も迫力あるバリトンで歌われ、参加者一同、お酒の酔いとは違った酔いに浸っていました。奥様の奏でるピアノと相まって、堀内様の歌声はうかい亭クリスタルルームに響き渡り、「ブラボー」「アンコール」の声が飛び交い感動の渦に包まれました。



素晴らしい歌声に酔いしれた後、会場は塾の思い出深い数々の歌に包まれました。「丘の上」、「慶應讃歌」、「若き血」、「慶應義塾塾歌」を吉村さんの指揮、石井さんのピアノ伴奏のもと、円陣を組み歌いました。



その後、大日方健会員（平成 10 年商学部卒）によるエールが行われました。楽しく盛り上がった懇親会も、終了の時を迎え、大和三田会顧問富澤篤紘会員（昭和 38 年商学部卒）による中締めのご挨拶があり、懇親会は盛況のうちに閉会となりました。



特別投稿「塾生時代の思い出」

塾生時代の思い出

井上 勝彦 経済学部 昭和 36 年卒業

昭和 32 年 4 月経済学部入学昭和 36 年 3 月卒という事で 4 年間塾にお世話になりました。

東日本大震災の年である平成 23 年度の大学入学式（5 月 1 日）には祝卒 50 年ということで大学より招待を得て出席してきました。

当日は約 5000 人以上の新入生の若きエネルギーに囲まれて 50 年前の自分を思い出すにつけ学生時代に体験した思い出が走馬灯のごとく思い出されてきました。

50 年前の入学式、晴れの詰め襟制服、油のしみ込んだ疲れた先輩の帽子、憧れの若き血塾歌の斉唱と若い血潮が踊る光景を呼び戻してくれました。

高校時代からのアスリートとしての延長で塾入学後体育会競走部に所属して全国から集まった同年輩の精鋭と先輩達に練習で揉まれながら学業と練習に励んだあのかまぼこ型の校舎。そして 400 メートルのグラウンドも年月を経て素晴らしい校舎と改良されたグラウンドに様変わり。

当時は安保闘争／学生運動の盛んな時代。塾生は比較的体制派が多く、学生運動に対しては無関心派（ノンポリ派）が日吉キャンパスで学生時代を謳歌しておりました。

その点盛り上がりのない平穩無事な学生時代であったのかもしれない。

憧れの三田キャンパスで大学 3 年／4 年とすごしました。最大の思い出ではテニスです。

三田へ行くより神宮テニス倶楽部へ通っていたようです。特に 4 年目は最終学年テニスの腕も上がり体育会の連中との試合で負かす事に生きがいを感じていた年頃でまったくのテニス馬鹿でした。最もテニスは中学の頃から熱中して中等選手権でもトップスリーでした。

大学最終年度のあの伝説の慶早 6 連戦は圧巻でした。優勝決定戦を含めての 6 連戦が 1960 年 11 月 6 日ー12 日開催され連日の超満員（合計 38 万人）。最終的には早稲田に軍配が上がりましたが同じアスリートとして一生の思い出に残っています。確か 2010 年の秋のシーズンは 50 年ぶりの優勝決定戦を慶早で戦いましたが卒 50 年是も何かの因縁でしょうか。

永い人生の中での 4 年間。塾生活学業の面では是といった思い出はなかったようで何時もすれすれで単位を取っていた記憶のみです。単位の取り方のみが上手くなっていったのではないかと今頃になって反省しています。時には卒業証書間違いなく貰ったかなと夢を見て冷や汗をかくこともあります。

最近大和三田会が創設され同じ釜の飯を食った先輩諸兄共々塾生活を思い出し一杯楽しみながら昔話に花を添える頃となりました。慶応義塾万歳。

私の学生時代

石塚 雅男 経済部 昭和 40 年卒業

学生時代の思い出はご披露出来ること、出来ないこと色々ありますが、ゼミの研修旅行も楽しい思い出の一つとして心に残っています。

日吉から無事三田になり、3 年生になるとゼミ選択の苦勞に直面します。私は、労働問題に興味があったので黒川俊雄ゼミを選びました。簡単な面接のようなものがあり無事参加出来ることとなりましたが、

前年までは、比較的少人数のゼミでしたが私達の時には3年生が一举に27名が加わり黒川先生も吃驚されていたのを今でも思い出します。私のクラスからは私と女性の2名で、他のメンバーは他クラスの友人が5~6名おり色々な意味で正直これは大変なことになったと思いました。黒川先生は、名前の通り色やや黒く非常に精悍な感じで一見とつきにくそうな感じですが、話をすると意外にフランクで質問にも懇切丁寧に対応して頂き大変勉強になりました。

当初はゼミにも積極的に出席し凄く真面目に一生懸命やっていたのですが、慣れてくるに従い人間の常として徐々に気が緩み始めてきました。その様な中、夏休中の研修旅行の話となり、黒川先生が幾つかの候補先を絞り込んで下さりその中から秋田県にある製紙工場の「東北パルプ」(現日本製紙)秋田工場を選びました。私にとっては秋田県に行くのは初めての経験でとても楽しみにしておりました。

さて、当日朝上野駅に集合、参加者全員で一路秋田に向かい午後秋田駅に到着、直ちに東北パルプ秋田工場見学をし、夕方秋田市にある宿泊場所である旅館に着きました。何とこの旅館は、秋田市の有名な飲み屋街で近くの絶好な場所にあり4年生を中心に早くも夕食後の勉強会の後飲みに行くことが決まりました。

夕食、勉強会が終わりいよいよフリーの時間です。夜の勉強に行く4年生他3年生数名で外に出掛けようとしたのですが、玄関は開いているものの門には鍵が掛かり閉まっており外に出られません。どの様に外に出るか鳩首協議をしている時誰かが「ここから出られるぞ」と叫びました。そこには丁度塀を乗り越えられる高さの大きな石があり、順番に塀から道路に飛び降りました。全員飛び降り終わった時、丁度警邏中の警察官が二人近くから見ており当然のごとく不審尋問されました。旅館の塀を乗り越えたのは事実なので、学生証を示し事情を話したところ「慶応の学生さんか。この辺は怖い店もあるのでこちらの方の店に行きなさい」と指で方向を示してくれました。示された方角の店で遅くまで飲み、出るときと同じ方法で宿に戻りました。当時の警察官は鷹揚で助かりました。

翌日は、工場で工場長以下と色々質疑応答を行い社員食堂で昼食をご馳走になり、午後は工場現場での作業見学をなりましたが、工場内は夏の暑さと蒸気の蒸し暑さでかなり労働環境は悪く女性作業員は汗まみれで働いており、この様な製造業の現場での厳しさを痛感すると同時に大きなショックを受けた事を今でも忘れません。

翌日は、全員で男鹿半島に行き全体が芝生で覆われた300メートル程の高さのある寒風山に行きました。山頂に登ると360度視界が開けており日本海も眼下に望め中々の絶景でした。その後、秋田駅に戻り解散となりました。新潟県出身の友達はそのまま家に帰りましたが、東京、神奈川出身の私達4人は折角ここまで来たので十和田湖に行くこととし先ず青森に向かいました。夕方青森駅に着いたのですが、市内に泊まるのは面白くないので近くの浅虫温泉に一泊しゆっくり温泉につかり鋭気を養って翌日十和田湖にバスで向かいました。十和田湖では名物のニジマス料理を食べたり、近くを散策したりしゆっくりと景色を楽しみました。

一泊し翌日はバスで青森駅に向かい、途中の湯治場で食べた「そば」がやけに美味しかったことを今でも覚えています。青森駅に着き夜行列車出発までには未だたっぷり時間があつたので、どういう訳か駅前の映画館で映画を見ようということになりました。見終わった後、ビールでも飲んで夕食でも食べようかとなった時、処で有り金幾らあると一人が言いました。幸い帰りの乗車券は持っていたので帰ることの心配は有りませんでした。そこで4人の残金を合わせた所2,000円程しかないことが分かりました。これではビールと食事は到底無理となり家から送金して貰うかとの案も出ましたが、当時ではすぐに手元に届く訳もありません。仕方なく皆で増やす方法を考えましたが中々名案が浮かびません。

思案に暮れ周りを見渡していると、キラキラ輝く魅力的なネオンが眼に入りました。全員ハタと手を打ってこれだということになりました。パチンコです。そこで一人500円ずつ渡し稼げなかったら空腹を抱え東京まで帰ろうと決死の思いで店に入りました。数十分過ぎ一人ずつ駄目だったと言いながら私の台の処

に来ました。普段パチンコはあまりやらない私ですが、この時はどういう訳か良く入り全員のプレッシャーに耐えながら打ち続け頃合いを見て打ち切りました。玉を交換すると何と8千円近くとなり、全員大喜びで近くのレストランに入り思う存分ビールを飲み食事を済ませ無事夜行列車に乗り東京に帰り着く事が出来ました。家に辿り着いた時にはポケットにあったのは数十円でした。二学期が始まった後のゼミでこの話が出て皆に大笑いされましたが、私にとってハラハラドキドキの楽しい思い出です。

なお、今年5月20日(金)三田北新館1階「ファカルティー倶楽部」で昭和36年入学経済学部R組のクラス会が行われました。私のクラスは、第二外国語がフランス語50名強で今では考えられませんが、女性は2名のみ(他のクラスも略同じ)でした。この内現在連絡が取れている39名中29名(女性2名含め)が参加しました。前回のクラス会は20年前で私は海外出張が重なり出席出来ませんでしたので、一部の者を除き大部分が卒業以来46年ぶりの再会となり、東京オリンピックのマラソンで優勝したエチオピアのアベベが走っているときに多摩川で野球に興じていた事など昔話に花が咲き、大いに飲み語り合いとても楽しいひと時を過ごしました。また、亡くなったものいるので皆で冥福を祈りました。

私のクラスは結構お山の大将的な者が多く、その為ためにクラス会を行ってこなかったのが一同深く反省をして次が20年後では全員90歳前後になってしまうため、参加者皆無の可能性大となるので、次回から2年毎に開催することとしました。

尚、今の若い方には歴史上の出来事かも知れませんが、私の在学期間中に起こった印象に残る主な出来事は、以下の通りです。(私の独断と偏見で選びました。阪神タイガース優勝が入っているのは子供の時からファンですので悪しからず)

昭和36年(1961年)	
1月	John F Kennedy が米国大統領に就任
4月	初の有人衛星ソ連宇宙船ボストーク1号がガガーリン飛行士を乗せ地球一周に成功
8月	東ドイツが東西ベルリンの境界を封鎖し後にベルリンの壁を境界線上に建設
10月	柏戸(第47代)大鵬(第48代)が同時に横綱に昇進(柏鵬時代)
昭和37年(1962年)	
2月	アメリカが宇宙船フレンドシップ7でジョン・グレンが同国初の宇宙船地球周回
7月	戦後初の国産旅客機YS-11が完成
7月	堀江謙一小型ヨットで太平洋単独横断しサンフランシスコに到着
8月	マリリン・モンローが怪死
10月	阪神タイガースが15年ぶりに優勝
10月	ケネディー大統領キューバ海上封鎖を表明(キューバ危機)11月20日危機終了
11月	日中長期総合貿易に関する覚書(LT協定)締結
11月	東京6大学野球で慶応優勝
昭和38年(1963年)	
6月	東京6大学野球で慶応優勝
7月	日本初の名神高速道路が一部開通
11月	ケネディー大統領がガラスで暗殺
11月	初の日米間衛星中継実験(ケネディー暗殺事件を伝える)
12月	力道山刺される
昭和39年(1964年)	
3月	早川電機(現シャープ)とソニーが電子式卓上計算機を完成と発表
4月	日本人の海外観光渡航自由化(年一度、所持金500ドルまでの制限付き)
4月	日本OECDに正式加盟
6月	新潟地震発生 死者26人
6月	洋横断海底ケーブル完成
9月	モノレール開業
9月	阪神2年ぶりに優勝
10月	東海道新幹線(東京新大阪間)開業
10月	第18回夏季オリンピック東京大会開催、開会式 10月24日閉会式
11月	東京6大学野球で慶応優勝

塾生時代

川井 慎司 法学部 平成9年卒業

私は、平成5年4月、慶應義塾大学法学部法律学科に入学し、平成9年3月に卒業しました。在学中の4年間は、バブル景気も終わり、優雅な学生生活とは言い難い頃でした（私だけかもしれませんが）。そういう時代背景もあってか、当時を振り返ってみても、「あんなことをした」とか「こんなことがあった」などと皆様に紹介できるような出来事がまったく思い当たりません。「塾生時代の思い出」の原稿執筆の依頼をいただき、自分の塾生時代を振り返ってみました。脳裏に浮かぶのは、居酒屋で安酒を飲みながら馬鹿話をしている姿だけでした。

私は、大学卒業後、三田会の行事などに参加することは一切ありませんでした。ところが、ちょうど大和三田会に参加させていただいたという縁もあったうえ、偶々、塾生時代の先輩からお声掛けいただいたこともあり、一昨年、150周年記念の連合三田会を見学しに行く機会がありました。大学卒業から十数年が経ち、日吉駅には、地下鉄が通り、駅ビルができ、日吉キャンパスにも、いくつもの立派な建物が新しく建っていました。日吉の町も、日吉キャンパスも、懐かしさを感じるどころか、あまりの様変わりに驚くばかりでした。それでも、塾生時代の仲間と一緒に日吉キャンパスを歩くと、当時の授業やサークル活動の話などで盛り上がり、塾生時代に戻ったような気分を味わえました。

大学を卒業して10年以上が過ぎた今でも、少なくとも数カ月に1度は（実際にはもっと頻繁に）、塾生時代の友人たちと集まっては酒を飲み交わします。この原稿を書いた7月末にも、新宿のビアガーデンで、いつものとおりビールジョッキを片手にくだらない話を何時間もしていました。その光景は、塾生時代のそれと変わりません。

塾生時代を振り返るまでもなく、大学卒業後十数年経っても、塾生時代と同じことをしている自分に成長のなさを感じてしまいます。しかし、大学卒業後十数年経っても、塾生時代と変わることなく、馬鹿話ができる仲間と出会えたこと、これが塾生時代一番の思い出なのだろうと思います。

自由投稿

自由投稿のコーナーでは、皆様からの投稿もお待ちしております。

我がワグネルソサイエティー

吉村 満 法学部 昭和 48 年卒業



大学時代、私はワグネルソサイエティー男声合唱団に入っていました。大学に入学するまで合唱とは縁遠かった私がワグネルに入るきっかけを作ったのは熱心なワグネルファンであった高校の友人でした。その友人は結局慶應を蹴って早稲田に行ってしまったのですが、私は慶應に入学することとなり、新入生のオリエンテーションの時、彼が熱く話していたワグネルの勧誘看板が目にはいりました。そちらにずっと寄っていくと、半ば強制的に名簿に署名させられ、別の教室でオーディションを受ける羽目にな

ってしまいました。先輩の弾くオルガンに合わせて声を出してみると、「はい君はセカンドテノール」と言い渡されました。そこから私のワグネル生活が始まったのです。

ワグネルの練習は週に 3~4 回、夕方から夜まで幼稚園を借りて行きます。日吉にいる間は、毎日昼休みに旧木造校舎でカレッジソング、愛唱歌の練習をします。初めの 1 時間は専門ボイストレーナーによる発声練習にあてられ、後半は演奏会用の曲の練習となります。但し、1 年生の前期は全体の発声練習後も別室で続けて発声練習が課せられ、半年間は曲を歌うことはできません。遠くに先輩の歌声をうらやましく聞きながら、半年間は我慢しなければなりません。演奏曲目はクラシックからポピュラーな曲迄幅広く、言葉も日本語、やまと言葉、ドイツ語、英語、マジヤール語等にも及びます。不得手な譜読みと発音に苦戦しながら曲が出来あがっていく喜びに夢中になった日々が思い出されます。余談ですが、私の家内は結婚前、弟から「合唱をやっているような男とは結婚するなよな」と云われていたということを私に話してくれましたが、見事弟の期待を裏切ってしまいました。どちらかという体育会系の義弟からみて、合唱をやっているような男は軟弱に見えたのでしょうが、春と夏の合宿では休みの 1 日を除き、早朝のマラソンに始まり、1 日 10 時間も歌い続けます。決して体力的に楽なことはありません。尚、家内の弟とは、現在極めて友好的な関係にあります。

ワグネルソサイエティーは古いクラブです。創設されたのは西暦 1901 年とうことですので、既に 1 世紀以上経過しています。現在はオーケストラ、女声合唱団と私の所属していた男声合唱団の 3 パートに分かれています。作曲家ワーグナーに因んでワグネルソサイエティと名付けられたとのことですが、ドイツ語読みならば

ヴァグネルとなり、ソサイエティは英語ではソサイアティとなるはずですので、何とも不思議なネーミングです。ワグネル 65 年史、ワグネル 100 年史を読むとクラブ創世記から日本の音楽会を代表する指導者、指揮者を多く迎えていたように記されていますが、男声合唱団の指導者は何と言っても木下保、畑中良輔の両先生に尽きます。木下保先生は団伊玖磨作曲のオペラ「夕鶴」の与ひょう役で著名な日本のオペ

ラ界の草分け的存在ですし、畑中良輔先生は新国立劇場の初代総監督を勤められました。男声合唱団における両先生の指揮は 50 年にも及び、現在のワグネルを作りあげました。木下先生は昭和 57 年にお亡くなりなる直前まで指揮を続けられ、畑中先生は来年 90 歳を迎えるのを期にワグネル指揮者を引退されます。両先生とも慶應義塾特別塾員に選任されています。最も著名なワグネルOBはダークダックスでしょう。今年、高見沢宏さんが亡くなり活動が中断されましたが、ワグネルとも多く競演をしています。ワグネルのみならず、世間にスマートな慶應のイメージを植え付けたことは、慶應全体にとってもその貢献度は大きいものがあると思います。そのほかOBには著名な音楽評論家等もいますが、昭和 62 年卒業の堀内康雄さんは日本を代表するオペラ歌手として世界で活躍しています。最近売り出し中の 4 人ジャズカルテットジャミンゼブの中にもワグネルOBがいるようです。

現在、ワグネルOBは名簿記載者だけでも 1000 名を超えます。そのうち約 50~60 名がOB合唱団に参加し、現役と同じく毎年定期演奏会を開き、関東関西の 4 大学（慶應、早稲田、同志社、関西学院）の合同の演奏会も続けられています。私のワグネル同期は卒業後 40 年間毎年欠かさず一泊旅行を行っており、暮れには亡くなった同期の墓参りを兼ねた忘年会を開き、さらに飲み会の呼びかけも頻繁ですので、いつまでも学生時代と同様なつきあいが続いています。私にとって、ワグネル抜きの大学時代は考えられませんし、卒業後してからの生活でもワグネルの存在は大きく、ワグネルの一員であることの感謝は絶えません。

慶應義塾とラグビー

大日方 健 商学部 平成 10 年卒業

今回も平成 10 年商学部卒の大日方が書くことになりました。次回以降は先輩後輩どなたかのご寄稿をお待ちしております。

昔から大好きだった NZ（オールブラックス）が 24 年ぶりに W 杯を優勝し、個人的にはとても嬉しいのであります。といってもあくまでも今回は日本ラグビーのルーツ校である慶應ラグビーについて書かせて頂きます。

「1899 年、当時慶應義塾の英文学教員であったイギリス人エドワード・B・クラークがケンブリッジ大学留学から戻った田中銀之助と共に、慶應の学生達に指導したのが始まり」というのが、日本ラグビーの始まりとして知られています。異説があるとも言われていますが私はこの説を信じます（笑）

戦後 1964 年より大学選手権が始まり、慶應は 1969 年に初優勝を飾りました。（早稲田と同点優勝）。しかしその後は入試難等に伴う部員減少に伴い、ライバルの早稲田・明治から離されつつありました。そこで始まったといわれているのは「地獄の山中湖」と言われた夏合宿での猛練習だったそうです。人材が揃わないのであるなら、練習量で他校を上回ろうという発想でした。そして生まれたのが慶應に今でも残る「炎のタックル」でした。そんな時代に主将・日本代表まで務めた名選手の一人に後の監督上田昭夫氏がいました。

しかしなかなか早稲田や明治の壁を崩すことが出来ず、80 年代前半には同志社の時代も訪れました。そんな中監督に就任したのが前述の上田氏でした。選手では 81 年に高校日本代表になりながら浪人までして入学した（後の 84 年度主将）松永敏宏氏や若林俊康氏などの外部組と、付属校出身組とが融合し、遂に 84 年に早稲田・明治を倒し関東大学対抗戦で全勝優勝を果たしました。しかし大学選手権の決勝で同志社にあと一歩まで迫りながら惜しくも敗れました。この年のメンバーが慶應史上最強のチームとも言われています（他のメンバーでは、現在元ユニクロ COO・ロッテリア CEO、現在ローソン副社長の玉塚元一氏がいます）。

松永前主将を始め最強世代の4年生が多く抜けた85年でしたが、ご存知の先輩方も多いですが、この代が慶應唯一の日本一を果たしました。トライゲッターの若林氏がいたのは大きいですが、もう一つ大きかったのは、ラグビーで一番大切と言われるスクラムの要第一列の3人（橋本達矢氏・五所紳一氏・中野忠幸主将）が残ったのもあると言われてます。それでも関東大学対抗戦は4位からのスタートでそこからチームが大きく伸び、大学選手権準決勝で早稲田に快勝し、決勝で明治に引き分け、抽選（当時は同点の場合は抽選で勝った方に次の試合の権利がありました。現在はトライ数等が並んだ場合に抽選。）に勝ち、日本選手権では（当時上田氏が勤務していた）トヨタ自動車に快勝し、見事ラグビー日本一になりました。今までの努力に上田氏のエッセンスを混ぜたチームが日本一のチームに上り詰めました。

しかし、上田氏が監督を退任したと共に慶應は優勝どころか大学選手権に13年出場できなくなるとは誰もが予想できないことでした。

94年に上田氏が監督に戻りましたが、80年代と異なる様々な手法で改革を行いました。また付属校強化とAO入試等による勧誘も盛んに行ったそうです。ご存知のとおりAO入試は非常に難関の試験なので、慶應に来い！という内容ではなく慶應を受験して慶應でラグビーをしよう！という内容だった内容を直筆の手紙を全国に送っていたそうです。

丁度この時代に私は在学していましたが、94年に早慶戦で0-80だったチームが96年・97年に連勝するチームへと生まれ変わりつつありました。それでもまだ大学選手権出場は叶いませんでした…。私が卒業直後の98年に大学選手権に出場が叶い、正月2日の準決勝の明治戦ではあと1プレイまでリードしていましたが、最後の最後に逆転負けしました。

その翌年慶應ラグビーは100周年を迎えました。戦力も充実したこの年は優勝候補にまでなりました。（84年⇒85年とは逆かもしれません）。関東大学対抗戦は明治に快勝、早稲田に逆転勝ちし、84年以来の全勝優勝。大学選手権では準決勝で同志社に競り勝ち、当時最強と言われた関東学院と決勝を迎えました。決勝の下馬評は五分五分と言われていましたが、蓋を開けてみれば27-7の快勝でした。私はこの試合国立競技場で観戦しましたが、最大の勝因は伝統のタックルでした。80分間ひたすらタックルを続け相手を疲弊させ、攻撃のチャンスを作り得点する。まさに慶應ラグビーの真髄を見た気がします。あとこの時に印象に残ったのは4万人以上観衆がいたのに、その8割近くが慶應ファンだったことです。

この年から試合開始前に校歌斉唱がはじまりましたが、塾歌の時に大半の方が歌っていたことに感動しました。その後は優勝からは残念ながら遠ざかっていますが、毎年大学選手権出場をしている強豪チームになりました。

今年度より、田中銀之助氏のひ孫にあたる田中真一氏が監督に就任されました。主将はあのラグビードラマ「スクール☆ウォーズ」決勝戦でライバル校のエースだった「曾根」（実際は仲宗根弘明氏）の息子である仲宗根健太君が務めています。今年のチームのスローガンは「for」～全てはチームのために、勝利のために～であり、やはりラグビーはチームでの戦いを強く感じさせるスローガンであると感じました。今シーズンは、王者帝京・リベンジに燃える早稲田・復活の明治・春シーズン好調の筑波と混戦も予想されます。慶應は既に筑波・帝京戦に敗れていますが、12月までにどこまで戦力を整えることが出来るかが大学選手権への鍵になります。

勿論、その一つに11月23日の早慶戦があります。毎年発売当日にほぼ指定席が完売になってしまい気づいた時にはもう遅く、私は毎年テレビ観戦であります…（今年は某事情により絶対に大和にいなければならないのでテレビ観戦です。）

追記 この事は慶應のラグビーではありませんが、先日リビアに取材に行く途中に事故死されたテレビ朝日のカイロ支局長は私の1学年上の早稲田ラグビーの控え選手でした。ですので、現役時代を覚えています。同世代として非常に惜まれる事故でした…。

お知らせ

第4回 大和三田会親睦ゴルフ大会 結果報告

早稲田校友会からも3名のゲストを迎えてのゴルフ大会が開催されました。

日時： 11月1日(火)

場所： 大厚木カントリークラブ

参加人数： 15名

結果報告： 優勝 吉田 喜俊さん(昭和32年文学部卒)

準優勝 佐藤 昌巳さん(昭和36年商学部卒)

第3位 豊田 修市さん(昭和36年商学部卒)

第1回 大和三田会バスツアー 報告

11月13日(日)に、勝沼ワイナリー見学ツアーが催行されました。参加者15名の貸し切りバスは、大和駅前を出発。ガイドさんの初々しいアナウンスを聴きながら、バスは山梨県勝沼町に向かいました。勝沼醸造所直営レストラン「風」でワインと昼食を楽しんでから、マンズワイン勝沼ワイナリーでワイン醸造工程を見学。試飲・販売コーナーには30種類を超えるワインが並んでいて、おみやげを購入したり、テイスティングをしたりと、ワインを堪能しました。その後、河口湖畔の北原ミュージアムを見学して、大和に帰還。好天にも恵まれ、たのしい一日を過ごしました。



自費出版のお知らせ

瀬戸 昭徳さん(昭和40年法学部卒)が『爺の家族レポート～みはいるのマーマ・マリナーの子育て奮闘記』を自費出版されました。

今後の活動

平成 24 年 新年会

日時：平成 24 年 1 月 14 日（土）18：00～
場所：欧風台所ラ・パレット

お花見の会

日時：平成 24 年 3 月（予定）
場所：（未定）

第 5 回 大和三田会総会

日時：平成 24 年 6 月 9 日（土）
場所：横浜うかい亭

平成 24 年新年会のご案内

下記の通り、平成 24 年新年会を開催いたします。ご参加の可否につきましては、別紙
ご案内をご覧ください。

なお、ご家族の方々のご参加も歓迎致します。

開催日時	平成 24 年 1 月 14 日（土）
開催場所	欧風台所 ラ・パレット（中央林間）
会費	会員：5,000 円 ご家族：5,000 円
お問い合わせ先 及び返信先 （幹事長宛）	〒242-0007 大和市中心林間 4-27-18 株式会社古木企画 内 電話：046-276-5228 FAX：046-273-7155 メール：f-kikaku-m@jcom.home.ne.jp



大和三田会